

# インフラシステム 輸出戦略

(平成30年度改訂版)

というのが、2018年6月7日に経協インフラ戦略会議で決定されました。  
そもそもこれは何なのか？という。。

## 経協インフラ戦略会議

2013年3月第1回開催

我が国企業によるインフラ・システムの海外展開や、エネルギー・鉱物資源の海外権益確保を支援するとともに、我が国の海外経済協力(経協)に関する重要事項を議論し、戦略的かつ効率的な実施を図る

(参考資料①)

2013年5月

第3回経協インフラ戦略会議決定

(参考資料②p.5)

## インフラシステム輸出戦略

官民連携のもと、以下に示す施策を強力に推進して、我が国企業が**2020年に約30兆円**のインフラシステムを受注(注)することを目指す。  
(注:事業投資による収入額を含む)

毎年改訂され、今回5回目の改訂

安倍政権で『インフラ輸出』とくれば、必ず入ってくる原子力。。。最新のインフラ輸出戦略にどんな事が書かれているか？

### 第2章具体的施策

- 1.官民一体となった競争力強化
- (2)経済協力の戦略的展開 (政策支援ツールの有効活用)
- ④公的金融による支援強化 (具体的施策)  
<実施済>

(参考資料③p.13)

**原子力**施設主要資機材の輸出等に係る公的信用付与に伴う安全配慮等確認の実施体制・手続きを整備  
<内閣府、関係省庁>

#### 参考資料

- ①首相官邸HP「第1回経協インフラ戦略会議議事次第」『経協インフラ戦略会議について』  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyou/dai1/gijisidai.html>
- ②首相官邸HP「第3回決定事項」『インフラシステム輸出戦略(本文)』  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyou/dai4/kettei.html>
- ③首相官邸HP「第37回決定事項」『インフラシステム輸出戦略(平成30年度改訂版)』  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyou/dai37/kettei.html>

3.我が国の技術・知見を活かしたインフラ投資の拡大  
(2)先進的な技術・知見の展開、実証や研究開発等を通じた貢献  
①先進的な低炭素技術の海外展開支援  
(具体的施策)  
<実施済>

(参考資料③p.34)

原子力発電に関する協力に当たっては、  
核不拡散や、相手国の原子力政策、相手国の日本への信頼と期待、  
二国間関係等を総合的に勘案し、個別具体的に検討した上で、  
**原子力協定の締結を推進**<外務省>

### 第3章地域別取組方針

#### 1.ASEAN地域

・ASEAN<現在の取組状況>

(参考資料③p.54)

物理面、制度面及び人的交流面での地域の連結性強化に資する  
高品質かつ強靱なインフラシステム導入支援を推進。  
特に、(中略) **原発建設等の電力基盤の整備** (中略) **が重要**

#### 3.中東、ロシア・CIS、太平洋島嶼国、中南米

・中東<現在の取組状況>

(参考資料③p.62)

**原子力・省エネ分野、石油・ガスプラント等の協力促進を図る**

・ロシア・中央アジア・コーカサス・モンゴル<現在の取組状況>

(参考資料③p.63,64)

・資源確保や**原発**等のインフラ案件の受注に当たっては、  
権限が大統領や政府高官に集中している国が多いことから、  
要人往来の機会を捉えた**トップセールス**が**重要**

・平成28年11月に設置された  
日露エネルギーイニシアティブ協議会にて、  
炭化水素、省エネルギー・再生可能エネルギー、**原子力の3分野**  
の**ワーキンググループ**を設置し、**協力を推進**。

#### 5.先進国

<現在の取組状況>

(参考資料③p.69)

・発電(**原発**、再生可能エネルギー等)、(中略)等の  
**我が国が強みを発揮できる分野でのインフラ輸出の促進**。  
そのため、あらゆる機会をとらえた  
首脳・閣僚レベルを始めとする働きかけを実施。

・日米経済対話の枠組みの下、**民生用原子力**、**CCUS**を含む  
高効率低排出石炭技術、天然ガス、エネルギーインフラ等に  
おける**協力を推進**

### 最後に一言

国が全面的にバックアップしてインフラ輸出を頑張る、という中に原発がしっかりと入っています。  
“今”お金を儲けることしか考えてないようにはしか見えません。  
輸出した原発で事故が起きなかったとしても、輸出先の国には「放射性廃棄物の処理をどうする？」  
という凄まじく厄介な問題が必ず発生します。  
ず～と将来の世代にまで残る問題も一緒に輸出している、という自覚を持つべきだと思います。